

高温時育苗における水稻稚苗の夜間低温処理効果

西村昭司郎

水稻晩期稚苗移植栽培の育苗期は、7 月中・下旬となるため、高温による苗の軟弱、徒長をまねきやすい。これを防止する一方法として、稚苗の夜間低温処理を試みた。その結果はつぎのとおり要約される。

1. 夜間(17 時～8 時)のみ温度 15°C前後、湿度約 83%の条件下で、少なくとも 5 日間処理すれば、7 月中・下旬においても、稚苗の地上部乾物重対草丈比は無処理区よりも増大し、移植後の発根数の多い健苗が育成できた。
2. この稚苗は育苗日数をさらに 7 日延長することがきわめて容易であった。
3. 夜間低温処理をした稚苗は、本田移植後の初期生育が無処理区のそれよりも旺盛で、出穂期が 1～2 日早まり、穂揃日数も 1～5 日短縮した。また 1 m²当り穂数および登熟歩合も向上し、収量に好結果をもたらした。